



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月29日

上場取引所 大

上場会社名 神戸電鉄株式会社

コード番号 9046 URL <http://www.shintetsu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 原田 兼治

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 部長

(氏名) 前田 正明

TEL 078-576-8671

四半期報告書提出予定日 平成24年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	11,331	△3.8	915	11.9	351	74.6	315	92.1
24年3月期第2四半期	11,781	△6.3	818	△2.6	201	34.9	164	141.2

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 260百万円 (138.5%) 24年3月期第2四半期 109百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	3.92	—
24年3月期第2四半期	2.04	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	99,264	10,837	10.9
24年3月期	101,016	10,579	10.5

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 10,837百万円 24年3月期 10,579百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,109	△2.4	1,642	5.6	608	101.3	526	—	6.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 ： 無
 - ④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期2Q	80,615,668 株	24年3月期	80,615,668 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	114,778 株	24年3月期	106,414 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期2Q	80,505,556 株	24年3月期2Q	80,515,782 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成24年5月14日発表の連結業績予想の修正は行っておりません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、四半期決算短信（添付資料）P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9
4. 運輸成績	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などを背景として緩やかに回復しつつあるものの、長期化する円高や欧州債務問題に加え、近隣諸国との外交リスクや電力供給不足の懸念から先行き不透明な状況で推移いたしました。このような厳しい経営環境のなか、当社グループにおきましては、安定した経営基盤を確立するため策定した平成24年度から28年度までの経営改善計画に基づき、各部門にわたり増収に力を注ぐとともに経費の削減に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

すなわち、営業収益は11,331百万円となり前年同期に比べ450百万円(3.8%)減少となりましたが、経費の削減などにより営業利益は915百万円となり前年同期に比べ97百万円(11.9%)増加、経常利益は支払利息の減少などにより351百万円となり前年同期に比べ150百万円(74.6%)増加、四半期純利益は315百万円となり前年同期に比べ151百万円(92.1%)増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の概況につきましては、次のとおりであります。

(運 輸 業)

鉄道事業につきましては、引き続き「安全の絶対確保」を図るために安全管理体制の確立と一層の強化を進め、安全計画を作成し施設の整備を進めております。

増収策といたしましては、ハイキングにおきまして沿線自治体などとの連携を図るとともに、大型ハイキングの沿線への招致として「朝日・五私鉄リレーウォーク」や平清盛にちなんだハイキングを開催し、多数のお客様にご参加いただきました。また、平清盛のゆかりの地を巡る「『KOBE de 清盛』1 dayパス」や「有馬温泉 太閤の湯クーポン」、「有馬・六甲周遊1 dayパス」などの企画乗車券の発売に努めました。

サービスの拡充につきましては、全駅においてICカードへのチャージ機能を搭載した自動券売機を設置し利便性の向上を図りました。また、新開地駅の旅客案内装置を更新し、液晶による映像での沿線の情報発信に努めております。

快適な乗車環境への取り組みといたしましては、沿線各高校のご協力をいただきながら「電車・駅構内でのマナー向上運動」を実施し、地域に密着した鉄道としてお客様から一層のご愛顧をいただけるよう努めました。

地球環境問題への取り組みといたしましては、駅や車内照明などのLED化や諸設備の省エネルギー化を進めたほか、パーク・アンド・ライド駐車場の利用促進に努め、環境にやさしい鉄道の優位性をアピールいたしました。

また、今夏においても電力供給不足が懸念されたことから、車内の冷房温度の設定変更、駅・車内における照明の減灯、自動券売機の一時的停止などを実施いたしました。

安全対策といたしましては、下り勾配におけるATSの改良工事を引き続き進めたほか、さらなる運転保安度の向上を図るため、重レール化、PCまくらぎ化、信号灯などのLED化、法面防災、橋梁補強などの工事を進めております。なお、設備投資の一部につきましては、「鉄道軌道安全輸送設備等整備事業」の補助を活用しております。

ご利用者の減少が続く粟生線におきましては、神戸電鉄粟生線活性化協議会の取り組みを継続するとともに、当社の輸送の効率化などによる自助努力及び関係自治体による40億円の無利子融資などの新たな支援により路線の維持・存続に努めております。すなわち、お客様のご利用状況や需要の動向に応じたダイヤ変更を本年5月19日に実施し利便性の向上を図ったほか、行政及び地域の皆様と一体となった利用促進と活性化策として「粟生農業体験」や駅での「七夕飾り」、恒例の人気イベントである「親子でGO!! ミステリートレイン2012」などを実施いたしました。また、粟生線おでかけモデルコースや粟生線各駅時刻表が掲載された「粟生線ご利用ガイド(保存版)」を作成・配布するとともに、昨年に引き続き沿線店舗との協同による「神鉄おもてなしきっぷ」を発売し利用促進を図りました。その他の企画乗車券といたしましては、「粟生線～三宮 平日昼間&土日休日お得きっぷ」を試験発売したほか、「神鉄・高速シニアパス」、「粟生線 家族おでかけきっぷ」などを継続発売いたしました。さらに、粟生線の存続にご賛同いただける皆様による活動組織として「粟生線サポーターズくらぶ」を設立し、あらゆる機会を通じて広く沿線の皆様に粟生線存続に向けた意識の啓発を図りました。

バス事業につきましては、貸切バス事業及び運行管理請負業においてスクールバスの増便や新規契約の獲得に努めたほか、引き続き積極的な営業活動を行いました。

タクシー業につきましては、効率的な配車や稼働率の向上に努めるとともに、大阪地区においてはハイブリッド車を導入し経費の削減に努めました。

しかしながら、鉄道事業において他の交通機関との競合に加え、就業・就学人口の減少や失業率の高止まりによる影響を受けたため、バス事業、タクシー業をあわせた当第2四半期連結累計期間の運輸業の営業収益は6,423百万円となり前年同期に比べ22百万円(0.3%)の減少、営業利益は前年同期並みの460百万円となりました。

(流 通 業)

ストア業につきましては、神鉄食彩館において納入価格の引き下げなど経費の削減を行う一方、商品の価格訴求を基本として商品構成の充実を図るとともに、お買い物ポイントサービスを導入し増収に努めました。また、食品スーパーとの相乗効果が期待できるドラッグストアを北鈴店に誘致し、本年7月より営業を開始いたしました。なお、神戸市と協力し、神戸市北区の5店舗においてレジ袋無料配布を廃止し環境保全に努めました。

駅売店につきましては、湊川売店において店内レイアウトを変更し販売商品を拡充するとともに、北鈴蘭台売店においてリニューアルを実施しキャンペーンによる増収を図りました。

この結果、個人消費の低迷や競合の激化及び昨年の「神鉄食彩館明石西店」の閉店などにより、当第2四半期連結累計期間の流通業の営業収益は3,203百万円となり前年同期に比べ223百万円(6.5%)の減少となりましたが、利益率の改善などにより営業利益は102百万円となり前年同期に比べ27百万円(36.0%)の増加となりました。

(不 動 産 業)

土地建物販売業につきましては、三田市富士が丘住宅地においてハウスメーカー7社との提携により8区画を販売したほか、六甲ひばりが丘などの戸建用地の販売に努めました結果、土地分譲では7,571.56平方メートルを販売いたしました。

土地建物賃貸業につきましては、賃貸ビルへのテナント誘致など積極的な営業活動に努めました。また、駐車場経営につきましては、昨年新たに開設した時間貸駐車場が増収に寄与しており、月極駐車場では引き続き利用率の向上に努めました。

さらに、神戸市から指定管理者として運営管理業務を受託いたしております「神戸市ものづくり復興工場」及び2箇所の市営駐車場については円滑な運営と利用率の向上に努めました。

この結果、松宮台住宅地における販売区画数が減少したことなどにより、当第2四半期連結累計期間の不動産業の営業収益は910百万円となり前年同期に比べ49百万円(5.1%)の減少となりましたが、経費の削減などにより営業利益は329百万円となり前年同期に比べ62百万円(23.2%)の増加となりました。

(そ の 他)

介護事業につきましては、本年4月施行の介護保険法改正に対応し、要員及びデイサービスの営業時間の見直しなどにより経費の削減を図るとともに新規利用者の獲得に努めました。

健康・保育事業につきましては、「よこやま保育園」において本年4月より定員を増員するなど保育園・学童保育所において駅に隣接している立地条件を生かし園児数の増員に努めました。また、北鈴蘭台の「神鉄スイミングスクール」、昨年11月より運営を開始いたしました「御影スイミングスクール」及び健康関連の簡易フィットネスクラブ「神鉄サーキットスタジオミニフィット」においてキャンペーン活動などにより会員獲得に努めました。

神戸市から運営管理業務を受託いたしております「神戸市立北神戸田園スポーツ公園」は魅力的なイベントによりご好評をいただいております。

建設業につきましては、当社グループ外からの受注拡大に努めました。

なお、ゴルフ場業につきましては、本年4月よりゴルフ場運営会社に業務を委託いたしました。

この結果、ゴルフ場の運営を委託したことなどにより、当第2四半期連結累計期間のその他の営業収益は1,243百万円となり前年同期に比べ160百万円(11.4%)の減少となりましたが、経費の削減などにより営業利益は34百万円となり前年同期に比べ16百万円(88.9%)の増加となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、有形固定資産が減少したこと等により前連結会計年度末に比べ1,752百万円減少の99,264百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、借入金の返済及び買掛金の減少等により前連結会計年度末に比べ2,010百万円減少の88,427百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、当四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等により前連結会計年度末に比べ258百万円増加の10,837百万円となり、自己資本比率は10.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ集計中ですが、現時点においては、平成24年5月14日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年 9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,346	1,361
受取手形及び売掛金	797	777
販売土地及び建物	1,988	1,862
商品	98	97
貯蔵品	465	464
未成工事支出金	112	5
その他	1,104	514
流動資産合計	5,914	5,084
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	49,574	48,885
機械装置及び運搬具（純額）	6,356	6,156
土地	34,525	34,525
建設仮勘定	1,074	1,103
その他（純額）	541	536
有形固定資産合計	92,072	91,208
無形固定資産		
のれん	43	40
その他	652	703
無形固定資産合計	696	743
投資その他の資産		
投資有価証券	713	661
その他	1,619	1,567
投資その他の資産合計	2,333	2,228
固定資産合計	95,101	94,180
資産合計	101,016	99,264
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,684	946
短期借入金	36,178	30,307
未払法人税等	35	51
賞与引当金	43	46
その他	2,923	2,895
流動負債合計	40,864	34,247
固定負債		
長期借入金	40,579	45,436
退職給付引当金	1,732	1,668
その他	7,260	7,074
固定負債合計	49,572	54,179
負債合計	90,437	88,427

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成24年 9 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,710	11,710
資本剰余金	814	—
利益剰余金	△2,831	△1,701
自己株式	△29	△31
株主資本合計	9,664	9,978
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△66	△114
繰延ヘッジ損益	△104	△110
土地再評価差額金	1,085	1,085
その他の包括利益累計額合計	914	859
純資産合計	10,579	10,837
負債純資産合計	101,016	99,264

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業収益	11,781	11,331
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	9,513	9,157
販売費及び一般管理費	1,450	1,257
営業費合計	10,963	10,415
営業利益	818	915
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	12	14
物品売却益	13	4
受取保険料	—	15
雑収入	47	25
営業外収益合計	74	60
営業外費用		
支払利息	673	603
雑支出	17	21
営業外費用合計	690	625
経常利益	201	351
特別利益		
工事負担金等受入額	—	29
特別利益合計	—	29
特別損失		
工事負担金等圧縮額	—	29
投資有価証券評価損	—	2
特別退職金	7	—
役員退職慰労金	5	—
その他	5	—
特別損失合計	18	32
税金等調整前四半期純利益	183	348
法人税、住民税及び事業税	14	29
法人税等調整額	4	3
法人税等合計	19	32
少数株主損益調整前四半期純利益	164	315
四半期純利益	164	315

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	164	315
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54	△48
繰延ヘッジ損益	△0	△6
その他の包括利益合計	△54	△54
四半期包括利益	109	260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	109	260
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

[報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報]

前第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	流通業	不動産業	計				
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	6,434	3,420	917	10,773	1,008	11,781	—	11,781
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	10	5	41	57	394	452	(452)	—
計	6,445	3,426	959	10,830	1,403	12,233	(452)	11,781
セグメント利益	460	75	267	803	18	822	(4)	818

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護事業、健康・保育事業、ゴルフ場業及び建設業他を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△4百万円は、主にセグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	流通業	不動産業	計				
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	6,414	3,199	869	10,482	848	11,331	—	11,331
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	8	4	41	54	394	449	(449)	—
計	6,423	3,203	910	10,537	1,243	11,780	(449)	11,331
セグメント利益	460	102	329	892	34	926	(11)	915

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護事業、健康・保育事業及び建設業他を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△11百万円は、主にセグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 運輸成績

(1) 輸送人員

		当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	増減率
第一種	千人			%
	定期外	7,408	7,437	△0.4
	定期	14,017	14,191	△1.2
	計	21,425	21,629	△0.9
第二種	千人			
	定期外	2,751	2,718	1.2
	定期	5,540	5,513	0.5
	計	8,292	8,232	0.7
合計	千人			
	定期外	10,159	10,156	0.0
	定期	19,558	19,704	△0.7
	計	29,717	29,861	△0.5

(2) 旅客収入

		当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	増減率
第一種	千円			%
	定期外	2,313,673	2,323,888	△0.4
	定期	2,336,821	2,373,902	△1.6
	計	4,650,494	4,697,791	△1.0
第二種	千円			
	定期外	81,159	80,225	1.2
	定期	93,424	94,235	△0.9
	計	174,583	174,461	0.1
合計	千円			
	定期外	2,394,832	2,404,114	△0.4
	定期	2,430,245	2,468,138	△1.5
	計	4,825,078	4,872,252	△1.0

(注) 輸送人員は千人未満を、旅客収入は千円未満をそれぞれ切り捨てて表示しております。